

2003年2月3日

東京三菱銀行
調査室

調査月報・論文/2003年2月：わが国大手半導体メーカー再生への選択肢

要約文

- (1)わが国大手半導体メーカーがかつてない苦境にある。これは、2001年に半導体市場が大幅に落ち込んだこともあるが、わが国各社が、90年代半ば以降の半導体市場の大きな構造変化に対し、必ずしも適切な対応措置を講じなかったことが大きく影響している。
- (2)今後、半導体市場自体は、均してみれば緩やかな拡大基調を辿ろうが、投資規模や技術面で事業難度が一段と上昇するうえ、海外勢との競争が熾烈化するなど、事業環境は一段と厳しさを増す公算が大きい。
- (3)わが国メーカーも、現下の苦境から脱却するため、これまでにない取り組みを始めているが、すでに海外メーカーとの格差が広がっている状況下、中途半端な対応では、激化する競争を勝ち抜くのは難しい。わが国各社にとっては、「業容の大幅縮小を甘受してニッチ分野に特化するのか」、あるいは、「業容拡大による復権を目指すのか」、いずれの方針を取るのかを明確化したうえで、それに沿った戦略を徹底できるかどうか、今後の鍵を握るといえそうだ。